

■尾道プロジェクト (現代表現/参加学生 11 名)

尾道市立大学との協働プロジェクト

実施期間 H28 年 10 月～H30 年 3 月
実施場所 芸術学部現代表現アトリエ
展示 H30 年 2 月 23 日～3 月 1 日 (尾道市光明寺会館と周辺の空き家)
来場者数 150 人

【内容】

尾道市立大学芸術文化学部美術学科(小野環准教授)との協働プロジェクトであり、平成 28 年度の準備・調整期間を経て、平成 29 年 4 月から本格的に始動した。

8 月には現代表現の学生・教員が尾道で活動する NPO 法人や企業、グループなどを訪ね、地域の魅力について「知る」ことからはじめ、地域の特徴である尾道市山手地区の空き家問題などについて、尾道市立大学の小野准教授からレクチャーを受け、実際に空き家を巡りながら尾道の現状についての認識を深めた。また、尾道の空き家を使い創作活動を行うアーティストのワークショップに参加し、「空き家再生」の取り組みを体験した。

こうした尾道でのリサーチから、学生は尾道の現状について「問う」ことからスタートし、実際の体験を通じて得られた知識、経験をもとに自身の作品制作を構想した。

プロジェクトの成果発表として、平成 30 年 2 月 23 日から 3 月 1 日まで、尾道の光明寺会館を会場に、学生の企画による「パンドラの匣庭」展を開催した。オープニングや展示期間中には、尾道市立大学の学生や教職員、尾道で活動するアーティスト(本学の卒業生を含む)など、尾道のまちづくりや文化に関わる人々と触れ合うことにより、その交流自体が好奇心を原動力とした学びの機会ともなった。

本プロジェクトは、平成 30 年度も引き続き尾道市立大学と協働で取り組み、光明寺会館を会場に展示を行うとともに、尾道市立大学の学生が、サテライトハウス宮島に滞在し、宮島での作品制作や展示・ワークショップなどを開催できないか、両大学の交流の進展を検討した。



尾道での現場体験や交流により作品を構想・制作



尾道市立大学の小野環准教授からレクチャーを受ける



空き家再生をテーマに現代表現の作品展示を開催

■日本画風景プロジェクト (日本画専攻/参加学生 20 名)

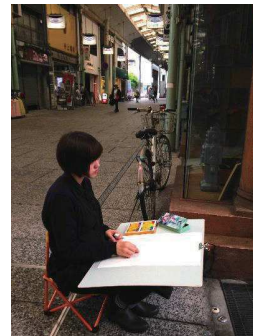
実施期間 H29 年 4 月～7 月
実施場所 尾道市市内各所、芸術学部日本画アトリエ
展示 H29 年 7 月 26 日・27 日・30 日 (芸術学部棟日本画アトリエ)
来場者数 61 人 (オープンキャンパス時)

【内容】

美術学科日本画専攻 3 年生の課題「風景制作・自由制作」としてカリキュラムに組み込み取り組んだプロジェクトである。

学生が尾道の歴史学び、現地でのロケーションハンティングや 2 日間に渡るスケッチ制作を通じて、尾道の魅力を絵画表現(日本画)によって伝えることを目的としている。学生は尾道の風景の中に入り込み、光や色彩を感じ取りながら時を過ごし、町のたたずまいを表現した。

完成した作品は毎年 7 月に開催している本学のオープンキャンパス時に日本画専攻のアトリエで発表した。本プロジェクトは平成 30 年度も引き続き尾道でのスケッチ制作を中心に取り組み、本学のオープンキャンパス時に合わせて展示を予定しているが、尾道を題材にした作品制作であることから、今後は尾道市立大学の展示スペースを借りるなど、尾道での作品展示も検討している。



尾道の魅力を絵画表現によって伝える

街の至るところでスケッチを行った

(6) 基町プロジェクトの実施

本学が広島市中区役所と協働して設けた教育研究活動拠点「M98」において、学生が主体となった地域活動を進めている。創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた、まちの魅力づくりや地区の活性化(コミュニティデザイン)に、平成 26 年度から取り組み、平成 27 年度からCOC+の事業(一部はアートプロジェクト)としても実施している。活動は、広島市中区役所からの受託研究をベースとしており、高齢化などの地域課題に対して、教員、学生が地域住民と一緒に話し合いながら様々なプロジェクトを進めている。「M98」を拠点としながら、平成 28 年度において、近隣に空き店舗を改修した活動スペース「M98<make>」と「M98<eat>」を、平成 29 年度において新たに「M98<join>」を整備した。

COC+の教育研究事業として、参加校の広島修道大学と「もとまちカフェ」を、安田女子大学と「グローバルキッチンプロジェクト」についてコラボレーションし、学生同士が交流しながら取り組みを進めている。

基町プロジェクトの概要	
目的	若者が主体となった創造的な文化芸術活動や地域交流を通じた、まちの魅力づくりや基町住宅地区の活性化を進める。 コミュニティの再生を目指す地域デザインの実践による教育研究を行う。
事業者	広島市中区役所・広島市立大学(広島市立大学が研究受託)
経緯	地域の高齢化等の課題に対応するため平成26年度からプロジェクトを開始。 平成 27 年度からCOC+の一環として、参加校と協働して取り組んでいる。
活動施設	教育研究活動拠点「M98」(オフィス) 平成28年度に「M98<make>」(工房)、「M98<eat>」(キッチン)を整備。 平成29年度に「M98<join>」(展示・交流)を整備。 学生、教員等が空き店舗のリノベーションを行った。
主な活動内容 【参加者数】	もとまちカフェ (人々の交流を促し地域の内外を繋ぐ活動 広島修道大学と協働して実施)【596人】 グローバルキッチンプロジェクト (食文化によるワークショップや交流 安田女子大学と協働して実施)【781人】 モトマチ・アートウィンドウ (ショーウィンドウをアートでディスプレイする)【12人】 創造・交流拠点づくり (空き店舗をリノベーションする)
全体参加者 2039人	基町、昔の写真展 (写真を軸に歴史トークや地区内ツアーを実施)【72人】 基町R:デザイン(住宅地区の案内サインの改善提案)【7人】 オープンミーティングの開催 (地域住民との意見交換会)【172人】



オープンミーティング・歴史トーク



基町 Re デザイン・案内サインの公開



小学校お面ワークショップ



基町アパート見学会



地域イベントへの参加



基町アートウィンドウ

■基町プロジェクト「もとまちカフェ」の内容

広島修道大学との協働プロジェクト

実施期間 H28年4月～H30年3月

実施場所 広島市中区基町「M98」など

イベント来場者数 596人

【内容】

広島修道大学との協働による「もとまちカフェ」では、基町住宅地区内外の交流活性化に取り組み、住民とのコミュニケーションの在り方を学習している。

本学と広島修道大学の学生同士が、基町の活動拠点である「M98」で定期的にミーティングを行いながら(4月～11月は毎週定例会を実施)、地域住民との交流の方法についてアイデアを出し合い、様々なイベントを通じて地域の子どもから高齢者まで多くの人々と一緒に活動している。

この取り組みは平成28年度から開始し、平成29年度は、地域の人が集まる基町住宅のショッピングセンター内や住宅周辺、広島修道大学で、「もとまちカフェ展」「こぼんカフェ」「地域イベント砂持加勢祭りへの出店」などを実施した。



ミーティング(広島市立大学にて)



ミーティング(広島修道大学にて)



基町住宅地区内外の交流の活性化に取り組んだ



■基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」の内容

安田女子大学との協働プロジェクト

実施期間 H28年10月～H30年3月

実施場所 広島市中区基町「M98(eat)」、基町ショッピングセンター、尾道市

イベント来場者数 781人

協力 広島市基町地域包括支援センター

【内容】

安田女子大学との協働による「グローバルキッチンプロジェクト」では、地域や世界の食文化をテーマに地域住民の食事を通じたつながりや、健康への提案を行っている。

平成 28 年 8 月から M98<eat>を活用してイベントを実施し、平成 29 年度は 23 回実施し、781 人が参加した。特に地域包括支援センターの協力を得て、地域住民の参加人数が増加し、食と健康についての啓発に貢献した。

平成 29 年度、安田女子大学は 2 回、管理栄養学科の渡邊准教授と学生が、地域の高齢者へ向けた健康料理教室「基町クッキング」を実施した。健康をテーマに減塩料理や酒粕を使った料理などを提供し、参加者は専門的な技術を学ぶ学生達の手際の良さや、若さに魅了されながら楽しめるイベントとして、人気の高い活動となった。一つ一つは小さな取り組みではあるが、単に食事をふるまうことだけではなく、地域とのコミュニケーションを通じた学びや交流の機会が生まれている。



食文化をテーマに高齢者や外国人など交流の輪と笑顔が生まれている



実施名	実施日	実施場所	講師	参加者
ナターシャさんのロシア家庭料理体験	4月29日(土)	M98eat	ナターシャさん(基町アパート在住外国人)	25人
アジア風チキンライス体験	6月24日(土)	M98eat	木村先生(広島国際大学医療栄養学部)	40
もともちカフェコラボ企画オリジナルシロップとかき氷体験	7月9日(日)	基町S C	もともちカフェ学生	108
ベトナム料理体験	8月26日(土)	M98eat	広島市立大学国際学部ベトナム人留学生	18
カレーと健康体操(10回)	9月8日(金)、10月13日(金)、20日(金)、27日(金) 11月3日(金)、17日(金)、24日(金)、12月8日(金)、15日(金)、H30年3月9日(金)	M98eat	基町地域包括支援センター	391
金継ぎワークショップ(4回)	9月23日(土)、30日(土)、10月21日(土)、28日(土)	M98eat	竹原幸枝さん(造形作家)	36
安田女子大学基町クッキング(2回)	10月1日(日)、11月26日(日)	M98eat	渡邊先生(安田女子大学管理栄養学科)	93
オルタナティブスペースコアコラボ企画	11月12日(日)	基町S C 広場	カルロスさん(料理家)	15
ドイツの料理とクリスマス	12月22日(金)	M98eat	ナターシャさん(基町アパート在住)ほか	15
尾道の食材による韓国風手巻き寿司体験	H30年2月24日(土)	尾道市光明寺会館	尾道AIRスタッフ亀井さん	40
計23回実施			参加者合計	781人

(7) 参加校による協働研究事業の実施

参加校 8 校による協働研究事業は、COC+事業の趣旨のもと、各校の学部構成や教育方針、これまでの地域貢献活動の経験を踏まえながら、可能な範囲で連携しながら事業を進めている。

内容としては、観光に関連する調査については広島大学、広島経済大学の 2 校。地域に関する講座の開催が広島工業大学の 1 校。アートプロジェクトや地域活性化に関する活動が尾道市立大学、広島国際大学、広島修道大学、安田女子大学、広島商船高等専門学校の 5 校。このうち広島修道大学と安田女子大学の事業は、本学の基町プロジェクトと協働した取組となっている。（詳細は資料—4に掲載）

校名	事業名(テーマ)	実施内容	成果
広島大学	宮島の森林植生の現状把握のための基礎研究	世界遺産を形成する弥山原始林は観光客の増加等により影響を受けており、その価値や魅力を高めていくため、保全・活用の在り方を検討・提案する。	地域行政に対して保全のための重要な情報を提供できた。学生の野外調査の党の研究手法の習得と論文報告。
尾道市立大学	アートプロジェクトの実施	広島市立大学との協働により、尾道の歴史、現状、地域特性を学び、空き家をテーマに作品制作、展示を行う。	地域課題への理解、現場作業体験、環境の改善、学生間の交流、展示による成果発表。
広島経済大学	学生による宮島観光資源の再発見と発信	①宮島の魅力の発信。②朝鮮通信使ゆかりの地(蒲刈町・上関町)の観光促進。③瀬戸内海の戦跡調査(ダークツーリズム)。	①写真展等の開催、冊子 2 冊発行 ②日韓交流ツアーの企画発表 ③呉市での調査とマップの構想。
広島工業大学	広島工業大学地域環境宮島学習センター等における「宮島・土曜講座」	「地域保全まちづくり研究センター」の研究成果を核に、広島工業大学教員と外部講師によるまちづくりに関連した講座を開講	全 6 回の講座を開催。参加者 226 人(内学生 41 人、行政 21 人)。学生の地域理解が深まり、地元自治体との連携を深めた。
広島国際大学	中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト	観光まちづくりを支える住民の高齢化に対して、健康づくりをテーマに地域の交流を図る	安芸太田町、呉市豊島、東広島市黒瀬の 3 地区でサロンを開催。住民相談や健康促進等を実施。
広島修道大学	基町プロジェクト「もとまちカフェ」への参画	広島市立大学との協働により、学生が基町住宅の住民と来訪者の交流促進を目指して企画・活動	週 1 回の定例の企画会議。もとまちカフェ展、屋台型のこくばんカフェ、地域イベントへの出店等を実施。
安田女子大学	基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」への参画	空き店舗を改修した基町「M98 <eat>」での「食」関連イベントを実施し、コミュニティの活性化や住民交流、健康促進の場をつくる。	2 回開催。参加住民 37 人、学生 26 人。住民への栄養や調理のレクチャー。学生の地域課題への主体的な行動力を養成する機会となった。
広島商船高等専門学校	高齢者健康調査	離島の高齢化に対応するため、住民の健康実態調査、保健指導等の健康増進プログラムを実施する。(協力:広島文化学園大学)	大崎上島町で実施。自治体、住民との協力体制を構築した。学生の地域課題、専門性を生かした地域貢献の意識が向上。



広島大学



尾道市立大学



広島経済大学



広島工業大学



広島国際大学



広島修道大学



安田女子大学



広島商船高等専門学校

(8) 大学連携による学生の観光研究・活動発表会（平成 29 年度新規）

① 概要

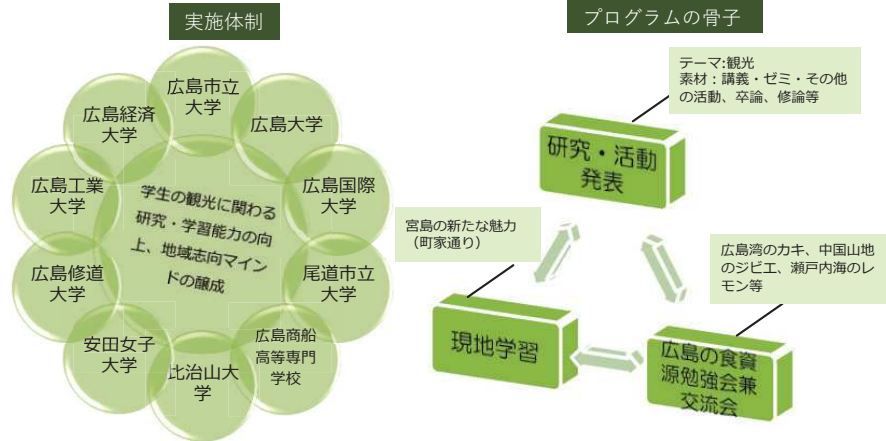
学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、広島市立大学が呼びかけを行い、COC+の参加6大学と比治山大学(協力校)が合同して、COC+の協働教育研究事業として、実施した。

研究・活動発表に加え、広島の食資源勉強会兼交流会、現地学習(町歩き体験)等を組み合わせた事業で、観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域での初めての大学間交流事業となった。

開催日時：平成 29 年 12 月 16 日(土)午後～17 日(日)午前(1泊2日)

会場：広島経済大学宮島セミナーハウス成風館（廿日市市宮島町）

参加者：学生 65 名、教員等 24 名 計 89 名（うち宿泊者は 38 名）



多彩なテーマで研究・活動を発表

平成 29 年度 発表テーマと参加大学（14 テーマ7 大学・発表順）

① 宮島の魅力を発信したいプロジェクト	広島経済大学
② 宮島双六観光マップ製作プロジェクト	広島市立大学
③ 宮島を最大限に楽しめるルートの提案	広島工業大学
④ 宮島の町家通りにおける無電柱化の方策とその効果に関する研究	広島工業大学
⑤ 宮島の森林植生の現状把握のための基礎研究 ー天然記念物弥山原始林およびその周辺の植生についてー	広島大学
⑥ 「ここが」がプロデュース!! さとやまを応援するラジオ番組制作	比治山大学
⑦ 「トワイライト エクスプレス瑞風」を活かした瀬戸内の魅力発信	広島市立大学
⑧ 広島は世界遺産だけじゃない～広島を滞在型観光地に～	安田女子大学
⑨ 地域資源を活用した「道の駅」連携バスツアーの企画考案	比治山大学
⑩ 島における観光：①島の観光イメージ・②観光と動物	広島大学
⑪ とびしま海道の観光とサイクリング	広島修道大学
⑫ しまなみサイクリング GPS ロガー解析	広島市立大学
⑬ 海外移住のルーツを巡ろう TOUR	安田女子大学
⑭ 朝鮮通信使を巡る旅 in 瀬戸内	広島経済大学

参加7大学

広島大学

広島経済大学

広島工業大学

広島修道大学

安田女子大学

比治山大学

広島市立大学



② プログラム

16日(土) 13:00~	開会挨拶	広島市立大学学長 青木信之
13:10~17:10	学生の観光研究・活動発表	14テーマ(7大学)
17:20~18:00	特別講演 テーマ「おいしい」から『おいしい』へ、～地元旬の食材を地元の宝に変える	武内恒則(錦水館社長)
18:10~20:30	広島の食資源勉強会兼交流会	國本善平(広島市立大学)
17日(日) 9:00~10:20	現地講義: テーマ/町家通り ①宮島の景観保全と重伝建指定 ②町家と町並みの空間特性 ③まちづくりと町家再生	佐藤俊雄(広島市立大学) 森保洋之(広島工業大学名誉教授) 菊川照将(ゲストハウス菊がわ代表)
10:30~12:00	現地視察 :町家通り 町歩き2ゾーン 町家案内2施設	森保洋之(広島工業大学名誉教授) 菊川照将(ゲストハウス菊がわ代表) 伊藤雅(広島工業大学) 國本善平(広島市立大学)

③ 評価

■プログラムの評価

- ・参加学生は、1年生から大学院生まで幅広いが、3年生が主体であり、卒業論文執筆等に先立っての実践・体験型教育の場となった。
- ・研究・活動発表、特別講演、広島の食資源勉強会兼交流会、現地講義、現地視察の全てのプログラムにおいて、学生・教員ともに高い評価となった。総合評価も学生・教員ともに高評価であった。特に高評価となったのは、学生においては交流会と現地視察、教員においては交流会と総合評価。

■事業の効果(学生のみ回答)

- ・94%の学生が「他大学の学生との交流の場に参加することによる学習・研究上の刺激を受けた」と回答。
- ・91%の学生が「広島地域の観光についての関心を高めた」と回答。

■自由意見(主なものを抜粋)

- 「大学や学科の違いによる研究視点の違いや様々なプレゼン方法が参考になった」
- 「学生同士の意見交換ができたことが貴重な体験であった」
- 「現地での町歩きが勉強になった」等



(9) COC+特定研究等の実施

■特定研究・社会連携プロジェクト

本学の学内競争的研究資金として、平成 28 年度から新たに、特定研究にCOC+研究費を設け、社会連携プロジェクトにCOC+関連事業経費を追加した。

平成 29 年度は、次の 7 件の研究テーマを採択し、実施した。

区分	研究テーマ	実施内容	代表教員
特定研究費 COC+研究費	COC+事業における先導的アートプロジェクトの実施と人材育成のための基盤研究	アートプロジェクトを通じて学生が地域の特性や資源に対して創造的アプローチを行う	社会連携センター 三上賢治 特任助教
	瀬戸内の観光振興と外国人観光客のインバウンドを目指した地域活性化プロジェクト	瀬戸内の観光・特産品の情報発信、隠れたスポットの発掘、特産品のブランディングを行う	国際学部 山口光明 教授
社会連携 プロジェクト費 COC+関連	旅行者対象の観光情報ツールを活用した地域観光振興プロジェクト	岩国市を対象に、音声ガイドツールなどを活用して観光施設を訪れる人の行動解析などを行う。	社会連携センター 植松敏美 特任助教
	尾道市立大学と連携したアーティストによる空き家再生事業を軸に、観光振興による地域創生に向けた人材育成事業	尾道市の空き家について現地調査、活用の現地体験を行い、学生の作品制作、展示、交流を行う。	芸術学部 古堅太郎 講師
	しまなみ観光サイクリストの行動情報収集プロジェクト	行動履歴収集ツールを使い、しまなみ海道の観光サイクリストの移動経路などの情報を収集し、観光振興に役立てる。	社会連携センター 吉岡研一 特任准教授
	基町プロジェクトに連動する「地域課題演習」及び「地域実践演習」メニューの開発と、その教育環境のための包括的整備	地域課題演習「基町・中島町ツアー」の検討と資料作成。地域実践演習の教育プログラムの展示空間の整備など。	芸術学部 中村圭 講師
	厳島八景に関する教育事業	八景の成立の歴史を学び、現地を巡り、地域文化への理解を深め、マップ制作と連携する	国際学部 城市真理子 准教授



尾道市での空き家再生



岩国市での音声ガイドツール観光行動調査

■市大生チャレンジ事業

学生が自ら選択した課題や、地域から提案されたテーマに基づき実施する、社会貢献活動を支援するための制度である「市大生チャレンジ事業」について、平成 28 年度から開始し、平成 29 年度は次の 2 件をCOC+に関連する地域活動として採択し、実施した。

区分	活動テーマ	実施内容	参加学生
市大生 チャレンジ事業	広島県の学生を対象としたビジネスコンテストの開催	学生が起業についての興味と理解を深めるコンテスト形式のイベントの企画・実施	30名
	広島ピースキャンプ2017	8月6日に来広する観光客への学内での4日間のキャンプ提供、文化体験の運営など	3名



学生のビジネスコンテストを企画・実施



広島ピースキャンプ2017を運営



(10) サテライト講座の実施 (高校生の地域内進学への促進)

COC+事業の目的は、地域が必要とする人材を養成するための教育カリキュラム等を実施することにより、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積(地元就職率の向上)を図ることにある。こうした中、参加自治体の状況として、若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが切実な課題となっている。

その対策のひとつとして、高校生の地元大学への関心を高めるための事業を行い、地域内への進学の道を示すことが、ひいては地域内での就職につながるものとして、期待されている。

こうした背景や要請を受けて、COC+事業協働地域在住の高校生の地域内進学を促進することを目的として、サテライト講座を実施することし、要請のあった柳井市において、平成 29 年度から本学が中心となって開講した。

■ 内容

① 高校生を対象とした講座の実施

② COC+参加大学を中心に広島地域の大学の説明と進学のPR

■ 実施概要

① 主催 柳井市、柳井市教育委員会と広島市立大学の共催

② 対象 柳井市を中心に、周防大島町、上関町、田布施町、平生町の地域内の高校に通う高校生

③ 会場 柳井市文化福祉会館

④ 受講者 50 名前後とし、講座の内容により少人数での開講も想定

⑤ 回数等 年 3 回、土曜日、各回 90 分

⑥ 講座内容 高校生向けに大学での学びをひと足先に体験できる模擬授業のような内容

⑦ 役割分担 広島市立大学/講座の提供(講座内容の企画、講師の派遣、資料原稿の作成、教材の準備)

柳井市/会場の提供、受講者募集等の開催に係る事務

	第1回(10月14日(土))	第2回(10月21日(土))	第3回(10月28日(土))
担当	情報科学部 石光俊介教授	国際学部 山根史博准教授	芸術学部 伊東敏光教授
テーマ	情報科学とサウンドデザイン	なぜ万人が統計学を知るべきなのか?	芸術に何が出来るの? そこから芸術による 新しい街づくりを考えよう!
参加者数	9 人(高校生7、先生2)	17 人(高校生 15、先生2)	高校生 6 人
参加高校	柳井、柳井学園、大島商船、田布施農工、高水	柳井商工、熊毛南、田布施農工	柳井、柳井商工、熊毛南



サウンドデザインとは(石光教授)



なぜ統計学を知るべきか(山根准教授)



芸術による街づくりを考える(伊東教授)

4 インターンシップの強化

(1) インターンシップの参加状況

インターンシップは、キャリア教育の中で重要な役割を担っていると言われながら、キャリア形成を図る教育プログラムであるというより、就職活動・求職活動の一環であるとみられる傾向がある。

こうした各人が抱くインターンシップに対する考えはともかく、本学COC+では、インターンシップは学生を地元企業に結び付ける格好の機会であると認識し、地元企業の実施するインターンシップへの学生の参加を促進している。

■インターンシップの参加状況

平成 29 年度、本学キャリアセンターが仲介して実施するインターンシップ等について、学生を受け入れた企業数は、304 社・団体であり、このうち 92 社・団体に対して、77 名が参加した。

■広島市有給長期インターンシップの参加状況

広島市が実施する市内大学の学生を対象に実施する有給長期インターンシップに。平成 29 年度は、本学から 3 名が参加した。(このインターンシップには、広島県内 15 大学から計 24 名が参加)

■その他のインターンシップの参加状況

上記以外に、ドミニカ共和国カーブアカデミーが実施するインターンシップ、在日米国総領事館のインターンシップに 4 名が参加した。

受入れ	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
企業等インターンシップ 受け入れ企業数	84 社・団体 (58)	103 社・団体 (70)	304 社・団体 (163)

学生の参加	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
企業等インターンシップ	42 名 (39)	63 名 (47)	77 名 (55)
広島市有給長期 インターンシップ	5 名 (5)	3 名 (3)	3 名 (3)
広島県インターンシップ 促進協議会	2 名 (0)	1 名 (0)	0 名 (0)
その他のインターンシップ	6 名 (0)	3 名 (0)	4 名 (0)
合計	55 名 (44)	70 名 (50)	84 名 (58)

(注) () 書きは、COC+協働機関におけるインターンシップ参加者数で内数

平成 27 年度、28 年度については、リクルート(リクナビ)やディスコ(キャリアス)等が情報提供し、学生が本学キャリアセンターの仲介を得ることなく、企業に直接申し込んで実施するインターンシップの参加者数を含んでいない。平成29年度は、学生からの報告制度を新たに設け、報告のあったものを集計・掲載している。

(2) インターンシップの強化に向けた平成 29 年度の実施

① COC+就職・インターンシップ担当ワーキングにおける検討

国公立大学は、学生の就職活動の面でこれまで比較的恵まれてきたことから、私立大学と比べ、大学による学生のキャリア形成・就職活動の支援が手薄い状況にある。

こうしたことを踏まえ、本学COC+では、学生に地元企業への興味・関心を持ってもらうことによって、地元企業への就職に結びつくことを期待して、学生のキャリア形成の支援の充実を図りながら、地元企業へのインターンシップの参加者の増加を図るための取り組みを進めている。

平成 29 年度は、どのようにして地元企業が実施するインターンシップに対して学生の参加を促すかという視点から、地元企業と学生が接する機会の充実等についての方策を検討した。

② インターンシップ参加にかかる体制の整備

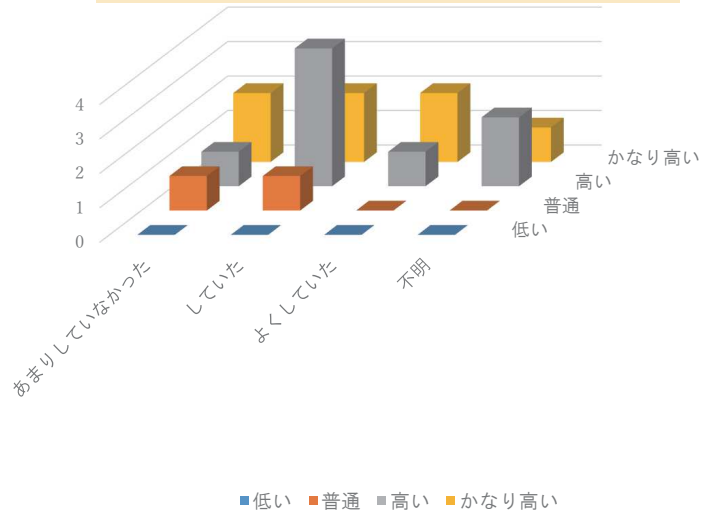
平成 29 年度は、従前からの検討を踏まえ、インターンシップに関わる学生・大学・企業の各主体の具体的な行動につながり、インターンシップがより効果的なものとなるよう、右図の通り、インターンシップ参加にかかる関係書類を見直し、インターンシップ実施の流れに沿った体系とした。

■見直しの視点

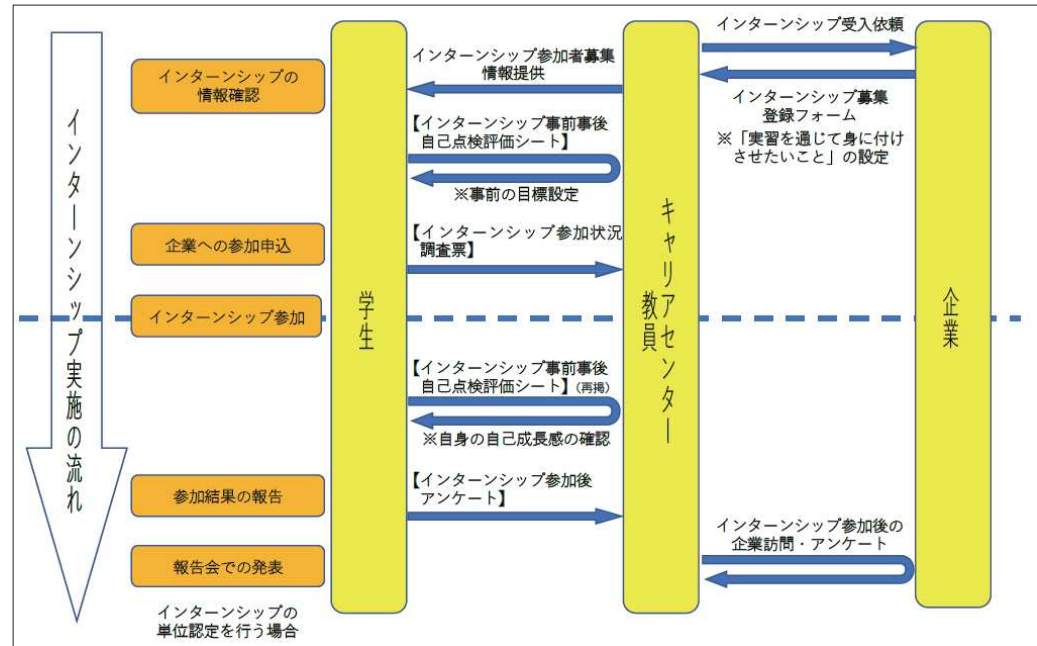
- ・ 学生にとって：自己の振り返りと自己成長感の確認
- ・ 大学にとって：参加学生数の正確な把握や学生に対する教員の助言・指導の充実
- ・ 企業にとって：大学教育と企業の人材育成のマッチング

インターンシップ参加後の企業訪問・アンケート

事前学習(企業研究、目標設定等)の状況と
インターンシップ実習能力(業務内容の理解、遂行能力等)の評価
のクロス集計



インターンシップ参加への体制を整備



平成 29 年度においては、本学教員が 19 社について訪問等を行い、本学学生のインターン受け入れ企業からインターンシップにおける実習の状況や成果等についてアンケート形式で聞き取り等を行った。

その一部の設問について、グラフ化したものが左図である。

事前学習について「あまりしていなかった」という回答がみられる点から、参加学生に対して事前学習を十分に行うよう助言指導すること、他方、「不明」という回答がみられる点から、企業に対して学生から事前学習の状況について、聞き取ることを依頼することが課題として確認された。

なお、実習能力の面で、事前学習を「あまりしていなかった」学生は、実習能力において企業による評価が低い傾向がみられた。